

者施行

天曆四年九月二十六日事要略○又見政

〔古今著聞集十九〕天曆七年十月十八日殿上の侍臣左右をわかつて、おのゝ殘菊を奉りけり、主

上○村清涼殿東の孫庇南の第三間に出御、王卿東の簀子に候、仰に云、延喜十三年侍臣獻菊、かの

日只左衛門藤原定方一人候、仍不相分左右、至于今日數人已候、可相分とて、右大臣○藤原師輔大納言

源朝臣○高參議師氏朝臣三人を左方とす、大納言藤原朝臣、左衛門頭藤原朝臣二人を右方とす、

左菊いまだ仰かうむらざるさきに弓場殿にかきたつ、其後召によりて御前の東庭にまゐる、洲

濱に菊一本をうゑたる、藏人所衆六人してこれをかく、仁壽殿の西の砌にしの邊に、兵衛府の圓

座一枚をしきて、殿上の小舎人一人、矢三をもちて候、洲濱の風流さまなり。

〔本朝文粹九〕賀祿綿

源順

昔侍重陽宴者皆賜大府之綿、去冬以來、有殘菊宴、應其徵者亦仍舊貫、爰江國子、藤貢士、荷祿綿歸秘

閣、顧相語曰、吳綿橫肩、可知八蠶之貢、齊裘聚毳、何稱衆狐之珍、欲嘲子、鶯之著蘆花、猶勝王純之得繡

被滿座相駕、遂及言詩、其詞云、○下

亥猪

亥猪ハ、キノコト云フ、十月中ノ亥日ニ行フ、後世幕府ニテハ、上ノ亥日ヲ以テセリ、此日貴賤

共ニ餅ヲ製シ、亥子餅ト稱シテ以テ之ヲ祝セリ、朝廷ニテハ始メ内藏寮ヨリ獻ゼシガ、後ニ

巴丹波國野瀬里ヨリ獻ズル事トナレリ、

〔増補下學集上〕時節、豕子能十月亥日食餅、令人無病、又說、豕子能生多子、故女人豕之日獻餅祝、

名稱